



白桜小だより

平成 28 年度 1 月号
中野区立白桜小学校
校長 宇賀神 佳子
平成 29 年 1 月 10 日発行

「学びの連続性」の構築

校長 宇賀神 佳子

新年明けましておめでとうございます。皆様お揃いでお健やかに、新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

さて、昨年 12 月 20 日には第 2 回小中連携協議会が開催されました。この協議会は、子どもたちが中学校に進学した際に、円滑に学校生活が送れるようにすることと、児童や生徒の学力の向上のため、教員が共通認識をもって指導を行えるようにすることを目指して、中野区の全公立小・中学校で年 2 回開催されているものです。

白桜小学校は、桃園第二小学校とともに第三中学校の校区に属していますが、6 月には白桜小学校で、12 月には第三中学校を会場として 3 つの学校から先生方が集まり、授業参観後に 6 つの分科会に分かれて協議が行われました。

私は英語の分科会に参加しました。小学校でも来年度から 3・4 年生に 20 時間の外国語活動が導入されることもあり、参加した他の教員も外国語活動から教科への移行に向けて何を大事にしていくかという点に、高い関心をもっていました。特に、「話す」「聞く」の体験型授業ではなく「読む」「書く」が加わった 4 領域での授業にするために、中学校での取組状況を知る必要がありました。教員からは「小学生は、文字を書きたくてたまらなくっている。この意欲は中学校でどのように引き継がれていくのですか。」という質問も出され、それに対し中学校の教員から、実際の指導の状況を踏まえた回答が寄せられました。また、外国語活動や英語科の特性であるコミュニケーション能力の基礎を培う点で、系統性のある指導が求められるところですが、英語が「教科」として位置付けられた場合には、「評価をどのようにしたらよいのでしょうか」等、小学校の教員がかなり細かな点まで質問したところ、中学校の教員からは、授業のどのような場面で評価活動を導入しているかという点について、具体的に示唆していただきました。

中学校の教員から、中学校では生徒が「ためらわずに英語で答えられる」「英語に慣れており、英語を身近に感じていて、進んで英語を使おうとする」とする点を目標に指導を入れているという力強い言葉をもらい、小学校で教える私たちも、児童・生徒に対して志を同じくできたような実感をもつことができました。

分科会後の全体会では、それぞれの分科会報告がなされ、実りある協議がなされたことを伺い知ることができました。私は主に小学校教員の立場で中学校の様子を教えていただきましたが、中学校の教員にとっても小学校の様子をご理解いただけたものと考えます。

小中連携教育は中野区の重要施策のひとつでもあり、毎年小中連携協議会の会を重ねるごとに、小・中学校の連携内容が充実しつつあります。これからもこうした協議会や指導実績に基づき、小学校と中学校の指導連携を発展させていきたいと考えます。

今年も白桜小学校の教育活動にご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。